

令和 7 年度

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(後期課程・一般選抜)

生涯教育科学コース

入学試験問題 外国語科目(日本語)

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 8 枚(表紙を除く)、解答紙は 3 枚。
- 3 解答は問い番号を明記し、解答紙に記入すること。
- 4 辞書(1 冊) 持ち込み可とする。(電子辞書等は不可)

設問 次頁以降は、『トランス・サイエンスの時代―科学技術と社会をつなぐ』（小林
傳司、NTT出版、2007年）の第4章「トランス・サイエンスの時代」からの抜粋
（120～131頁）である。この文章を読み、以下の問いに答えなさい。

問1 「トランス・サイエンス」とは、いかなることを意味しているのか。ワインベ
ーグの論ずるところに則して説明しなさい。

問2 ワインバーグの考え方を、筆者はどう解釈しているのか。説明しなさい。

問3 本文に述べられている内容を踏まえ、大学等が行う諸研究の成果を社会に実装
していくことをめぐっては、いかなる配慮が必要であると考えられるか、あなたの考
えを述べなさい。

ここに文献の抜粋が入ります。

令和 7 年度

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(後期課程・一般選抜)

生涯教育科学コース

入学試験問題 外国語科目 (英語)

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 2 枚(表紙を除く)、解答紙は 1 枚。
- 3 辞書(1冊)持ち込み可とする。(電子辞書等は不可)

次の文章は Michel de Montaigne による *Essays* (translated by Donald M. Frame, *The Complete Works of Montaigne*, Stanford University Press, 1957, pp. 110-111) からの抜粋です。文章をすべて日本語に訳しなさい。

なお、文中の Muses と Arcesilaus はアルファベットのまま記載してよい。斜体（イタリック）の文は他の文と同じように訳してよい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Michel Eyquem de Montaigne, *Essays* (translated by Donald M. Frame, *The Complete Works of Montaigne*, Stanford University Press, 1957, pp. 110-111)

令和 7 年度

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(後期課程・一般選抜)

教育政策科学コース

入学試験問題 外国語科目 (英語)

注 意

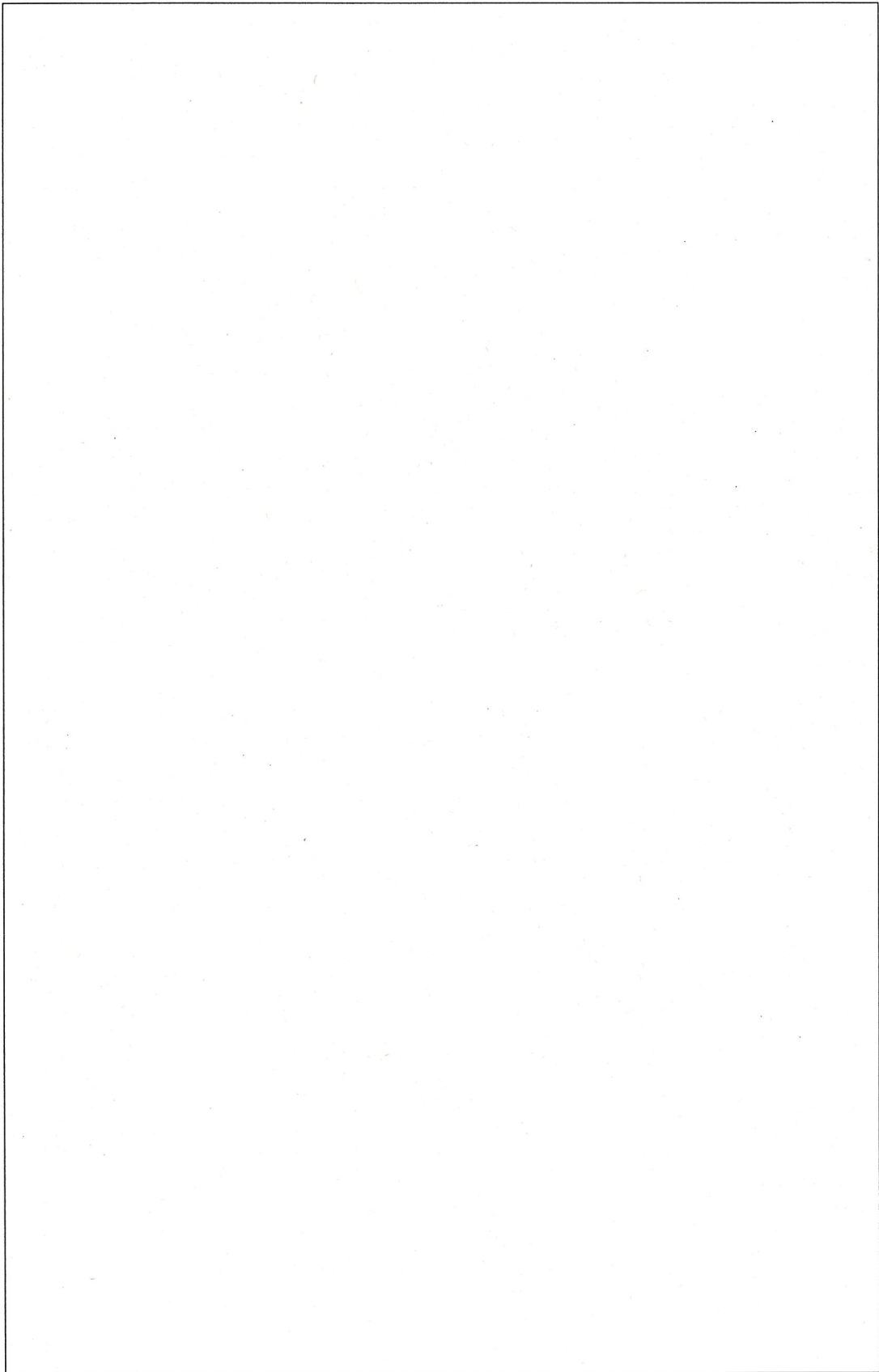
- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 4 枚(表紙を除く)、解答紙は 6 枚。
- 3 辞書(1冊)持ち込み可とする。(電子辞書等は不可)

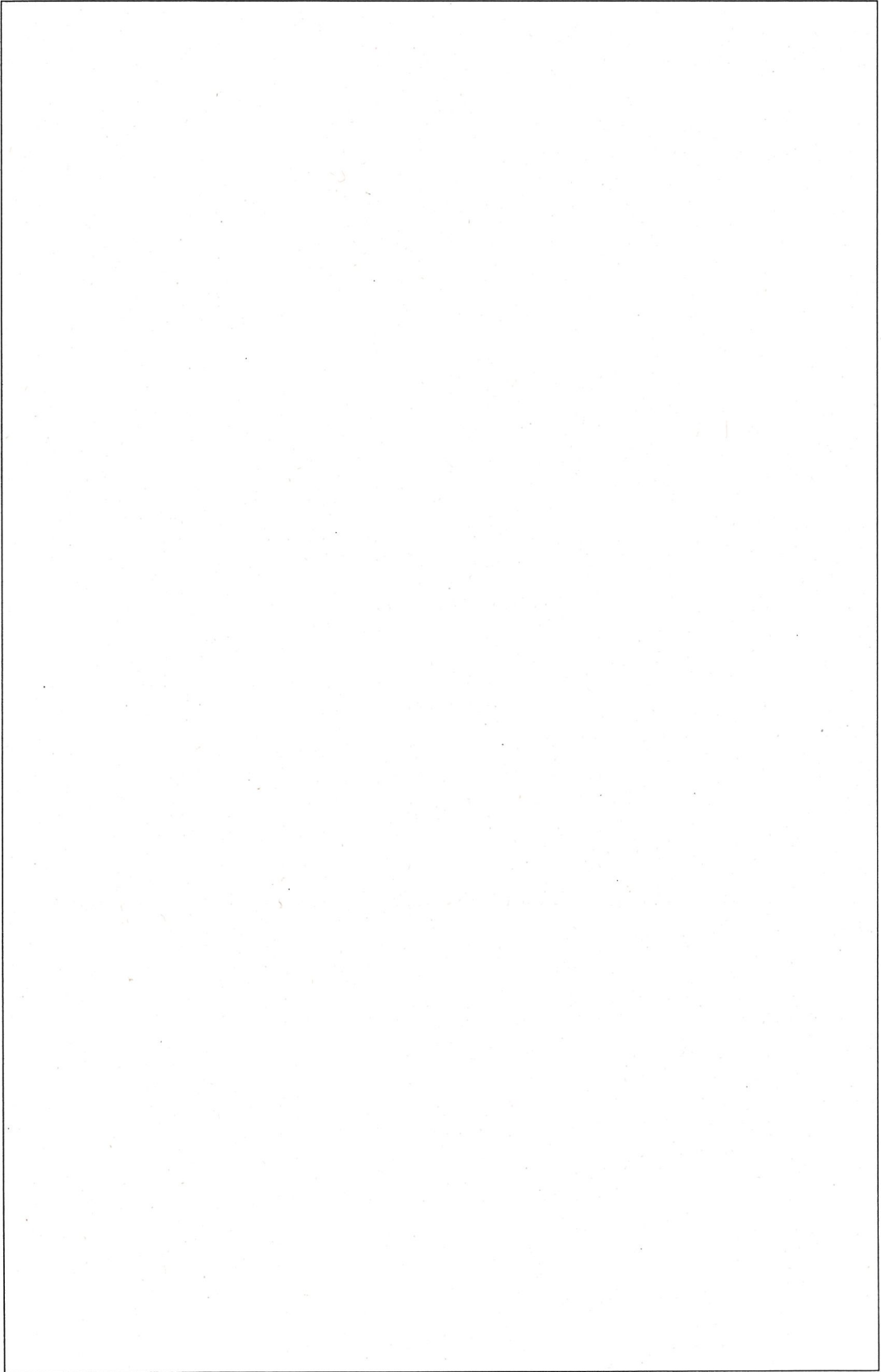
問題：

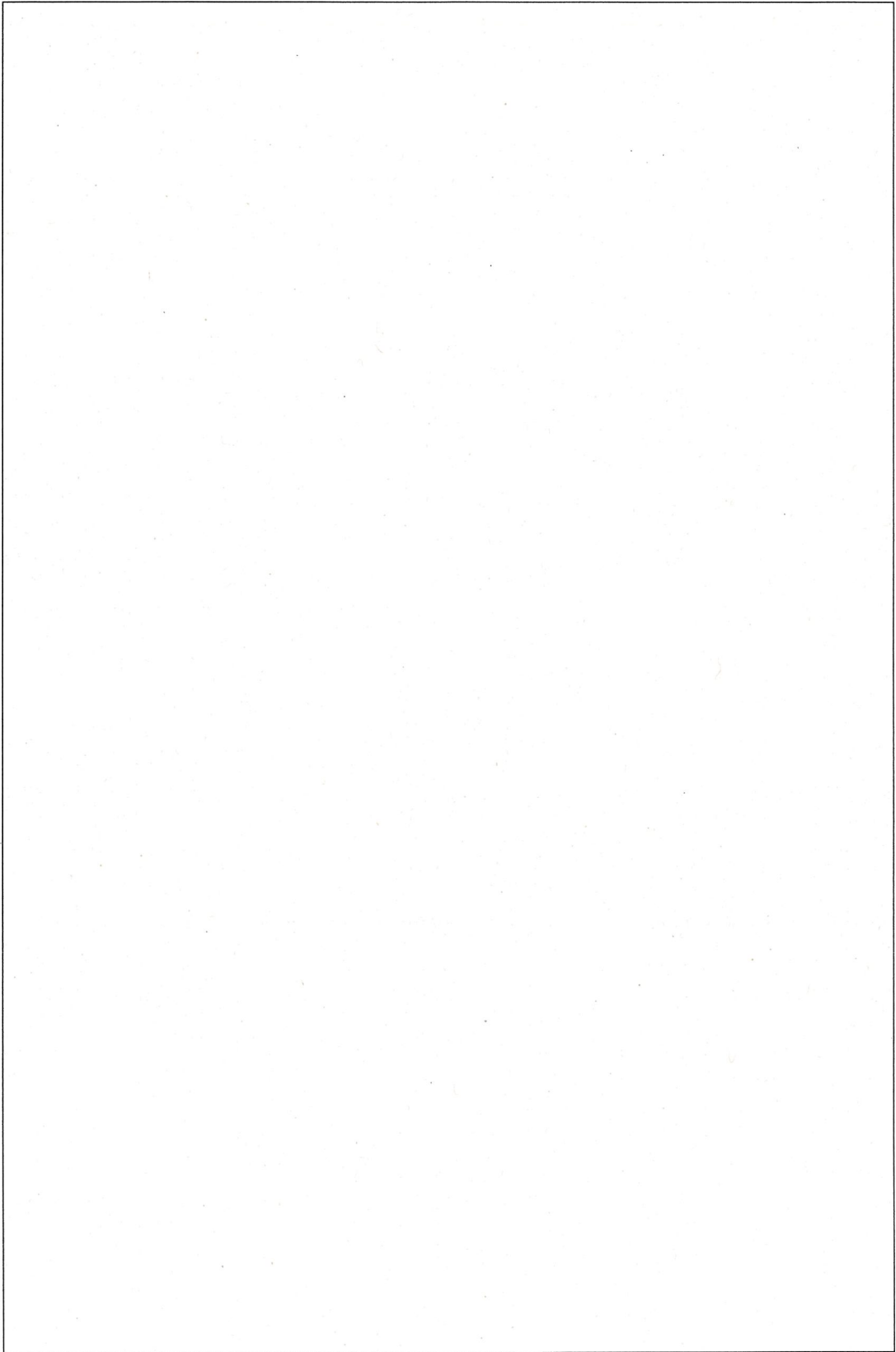
下の文章は、Stacey J. Lee (2018). “The (In)Flexibility of Racial Policies: Chinese Americans in the Jim Crow South”, Angelina E. Castagno and Teresa L. McCarty. (Eds.), *The Anthropology of Education Policy: Ethnographic Inquiries into Policy as Sociocultural Process*, New York: Routledge, pp. 125-138 の中から pp.125-129 を抜粋したものをもとに作成したものである。途中とばさずに日本語に訳しなさい。なお、人名はアルファベットのままでよい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Stacey J. Lee (2018). “The (In)Flexibility of Racial Policies: Chinese Americans in the Jim Crow South”, Angelina E. Castagno and Teresa L. McCarty. (Eds.), *The Anthropology of Education Policy: Ethnographic Inquiries into Policy as Sociocultural Process*, New York: Routledge, pp. 125-138 のうち、p. 125 の本文冒頭から p. 129 の 13 行目まで。







令和 7 年度（第 2 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（後期課程・一般選抜）

グローバル共生教育論コース

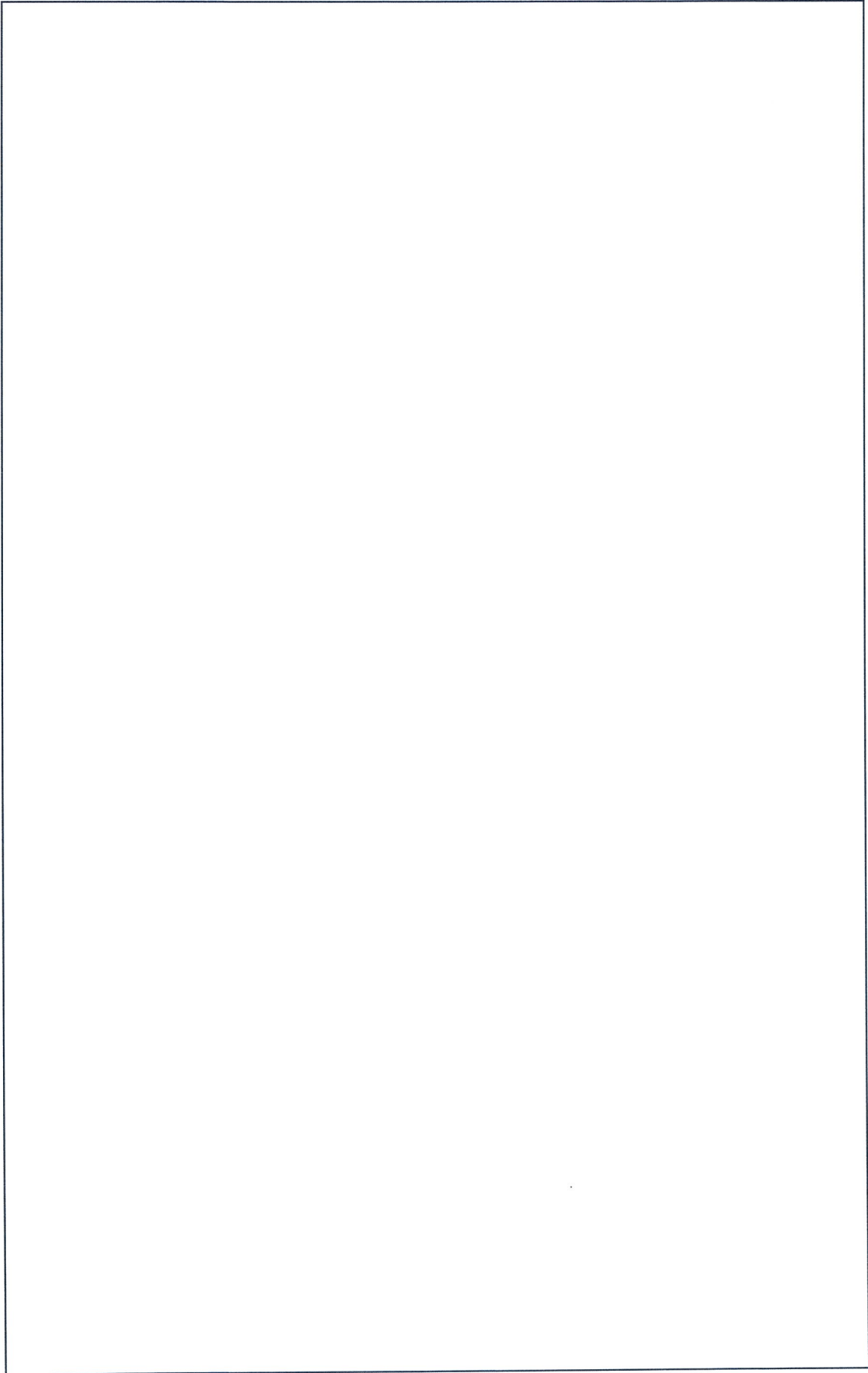
入学試験問題 外国語科目（英語）

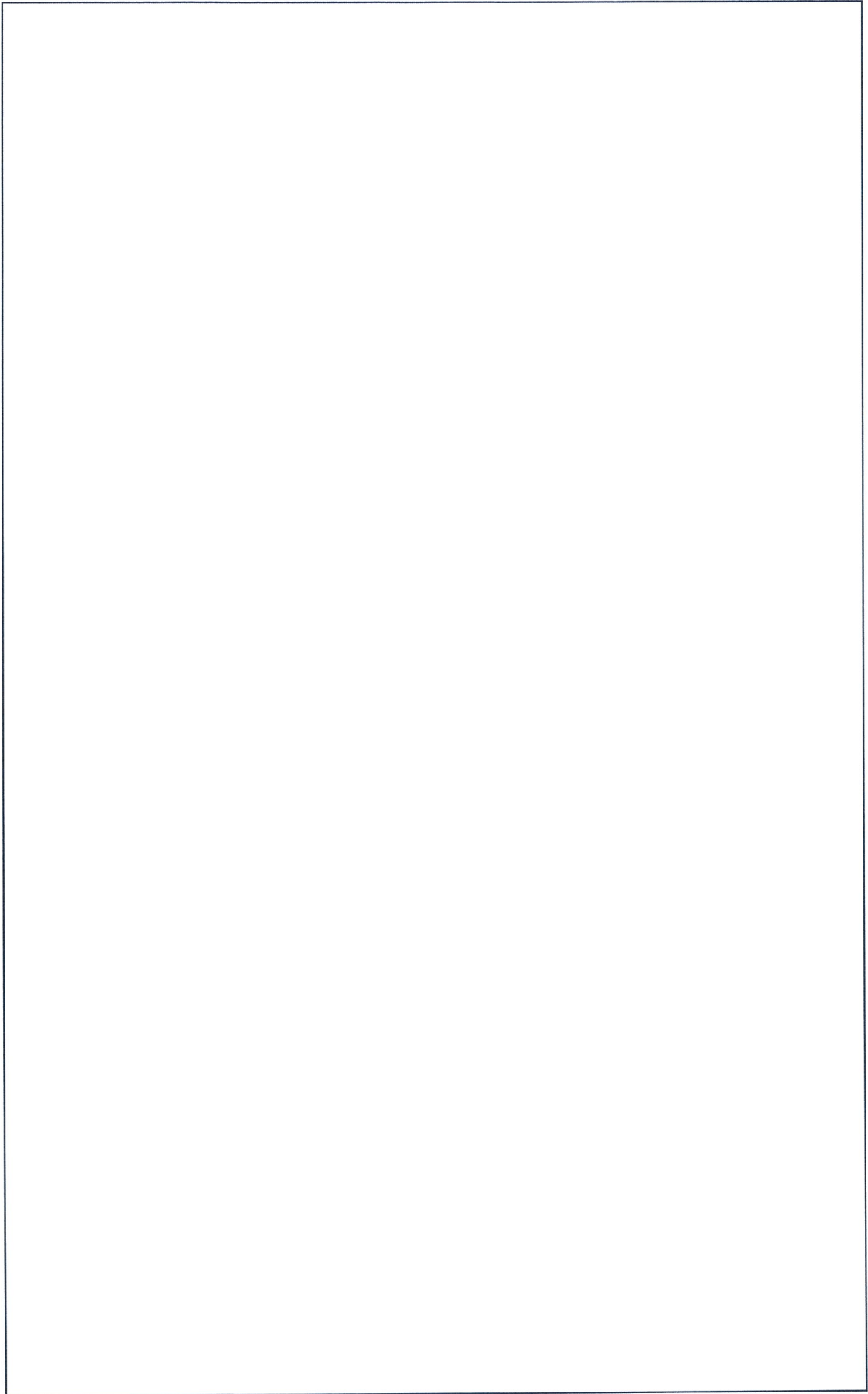
注 意

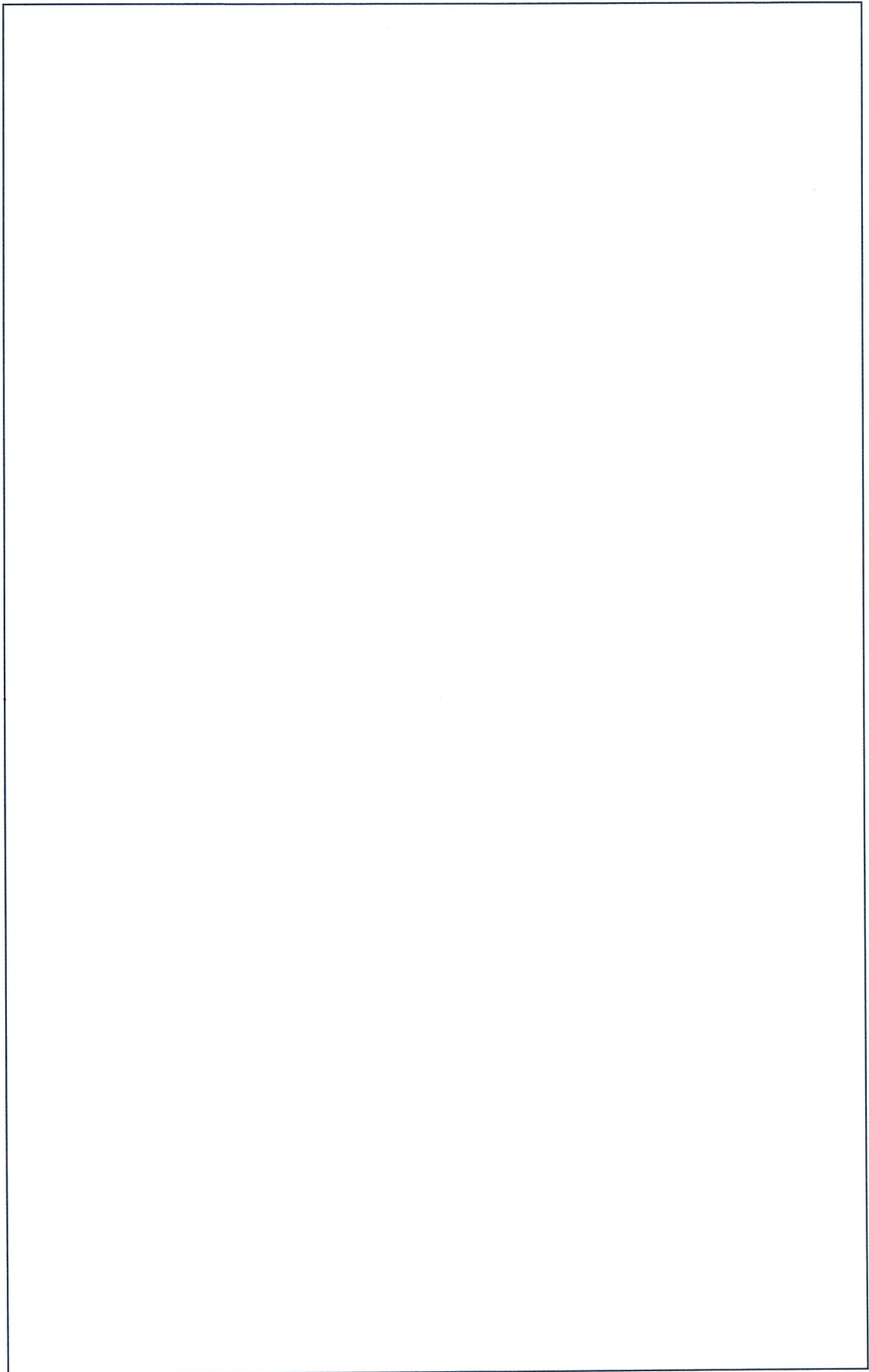
- 1 試験時間は 1 2 0 分。
- 2 問題紙は.....4.....枚（表紙を除く）、解答紙は.....5.....枚。
- 3 辞書（1 冊）持ち込み可とする。（電子辞書等は不可）

設問：以下の文章は、Delors, J. (2013). The treasure within: Learning to know, learning to do, learning to live together and learning to be. What is the value of that treasure 15 years after its publication? *International Review of Education*. 59, 319–330.からの抜粋である。見出しも含め途中飛ばさずに全て日本語に訳しなさい。なお、人名・委員会名は原文表記のままでよい。また、イタリック体は、区別して表記する必要はない（例：「*Tohoku University*」というイタリック体の単語→イタリック体ではなく「東北大学」と表記）。

ここに当該文献の
320 ページの 15 行から 323 ページの 23 行まで
の部分が掲載されています。







令和 7 年度（第 2 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（後期課程・一般選抜）

教育情報アセスメントコース

入学試験問題 外国語科目（英語）

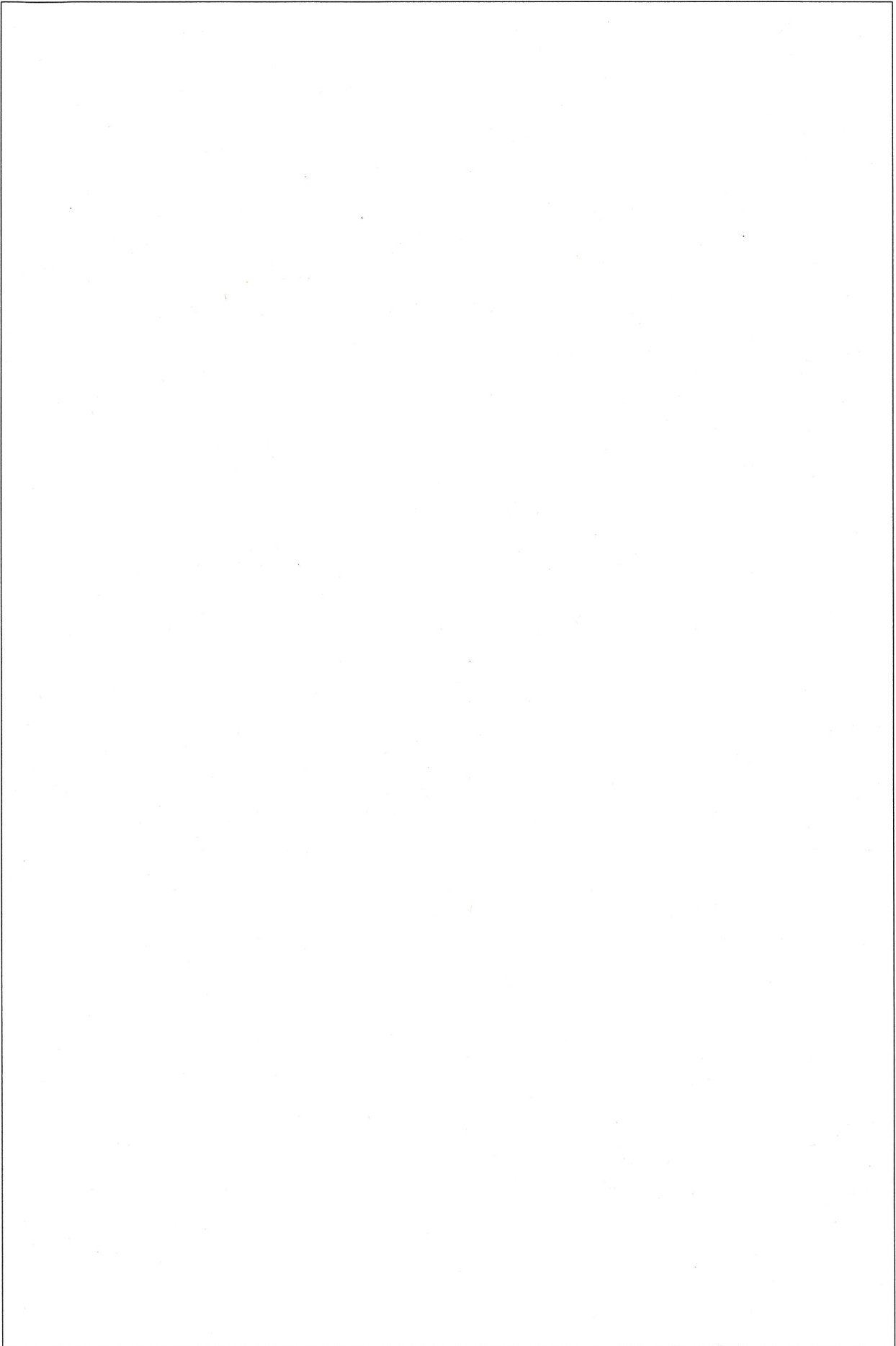
注 意

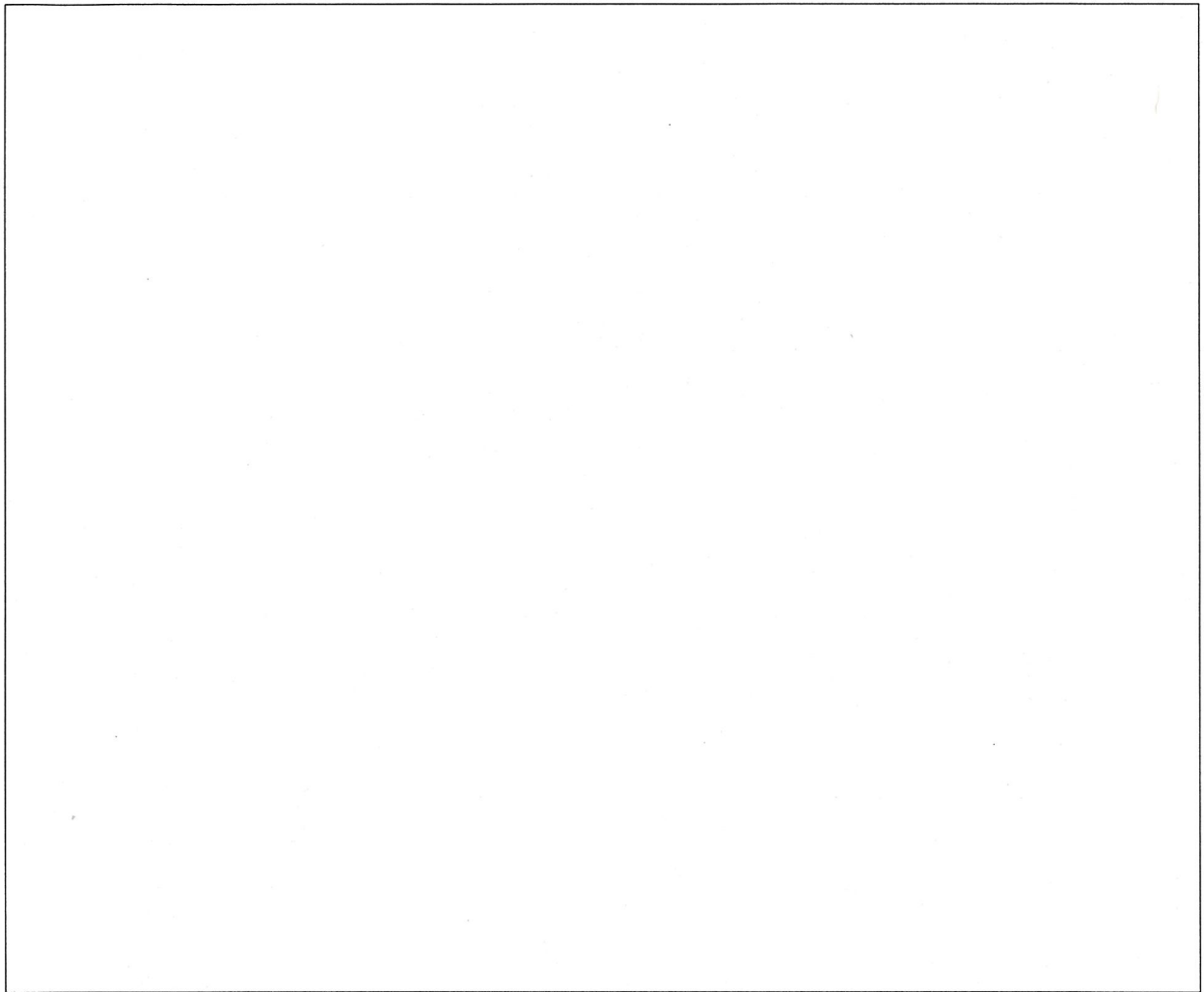
- 1 試験時間は 1 2 0 分。
- 2 問題紙は.....5.....枚(表紙を除く)、解答紙は.....4.....枚。
- 3 設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書（1冊）持ち込み可とする。（電子辞書等は不可）

設問Ⅰ つぎの英文を読んで、問 1～4 に答えなさい。

ここに当該文献の

24 ページ 2 行目から 25 ページ下から 7 行目まで
の部分が掲載されています。





(OECD “Nurturing Social and Emotional Learning Across the Globe”, 2024 から抜粋・一部改変)

問 1 下線部(1) “AI could potentially outperform large shares of the population” の具体的な意味を 150 字程度の日本語で説明しなさい。

問 2 下線部(2) “the causal sense of this relationship is unknown” の具体的な意味を 150 字程度の日本語で説明しなさい。

問 3 下線部(3) “disparities still exist at both the low and high ends of the performance spectrum” の具体的な意味を 150 字程度の日本語で説明しなさい。

問 4 この文章の大意を 400 字程度の日本語で説明しなさい。

設問 II 次の英文を日本語に訳しなさい。なお、固有名詞は原文表記のままでよい。また、丸括弧（ ）で囲まれている出典の情報を訳文に書く必要はない。

ここに当該文献の

866 ページ下から 10 行目から 868 ページ下から 15 行目までの部分が掲載されています。

(Barber, J. P., King, P. M., & Baxter Magolda, M. B. (2013). Long Strides on the Journey toward Self-Authorship: Substantial Developmental Shifts in College Students' Meaning Making. *The Journal of Higher Education*, 84(6), 866–896.より作成)

令和 7 年度

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(後期課程・一般選抜)

教育心理学コース

入学試験問題 外国語科目 (英語)

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 11 枚(表紙を除く)、解答紙は 2 枚。
- 3 志願する領域によって解答する問題が異なる。問題選択の方法は問題紙中に記してあるので、それにしたがって問題を選択の上、解答すること。
- 4 解答は、問題番号を明記の上、それぞれ別の解答紙に記入すること。
- 5 辞書の持ち込み不可とする。

○発達心理学領域を志望する者は，設問 B-1 および設問 B-2 に解答しなさい。

○発達障害学領域を志望する者は，設問 C-1 および設問 C-2 に解答しなさい。

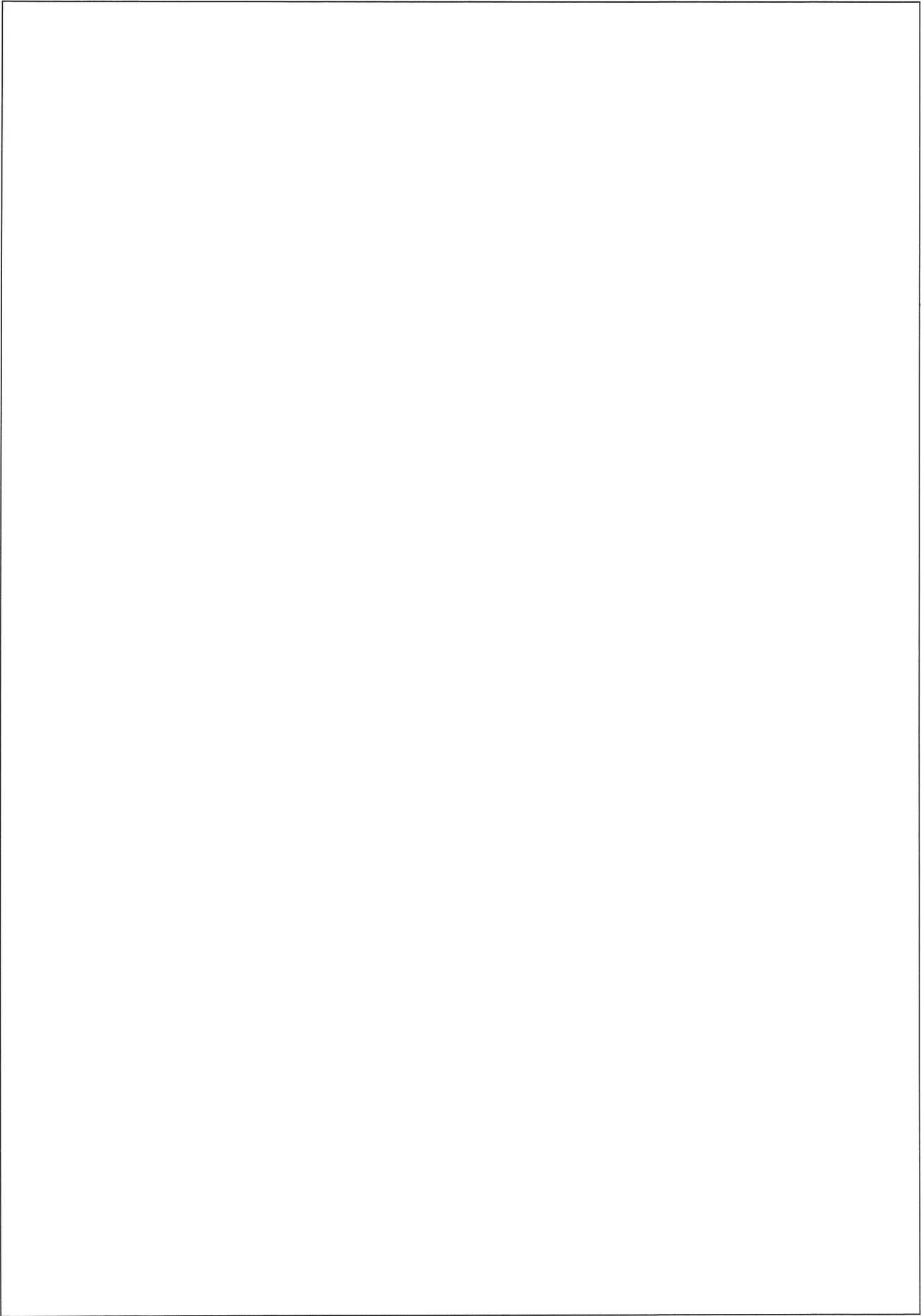
(発達心理学領域)

【設問 B－1】 次の英文はある研究論文の問題と目的部分からの抜粋である。この英文を読んで以下の問いに答えなさい。

ここに当該文献の

1 ページ本文 1 行目～3 ページ 11 行目

の部分が掲載されています。



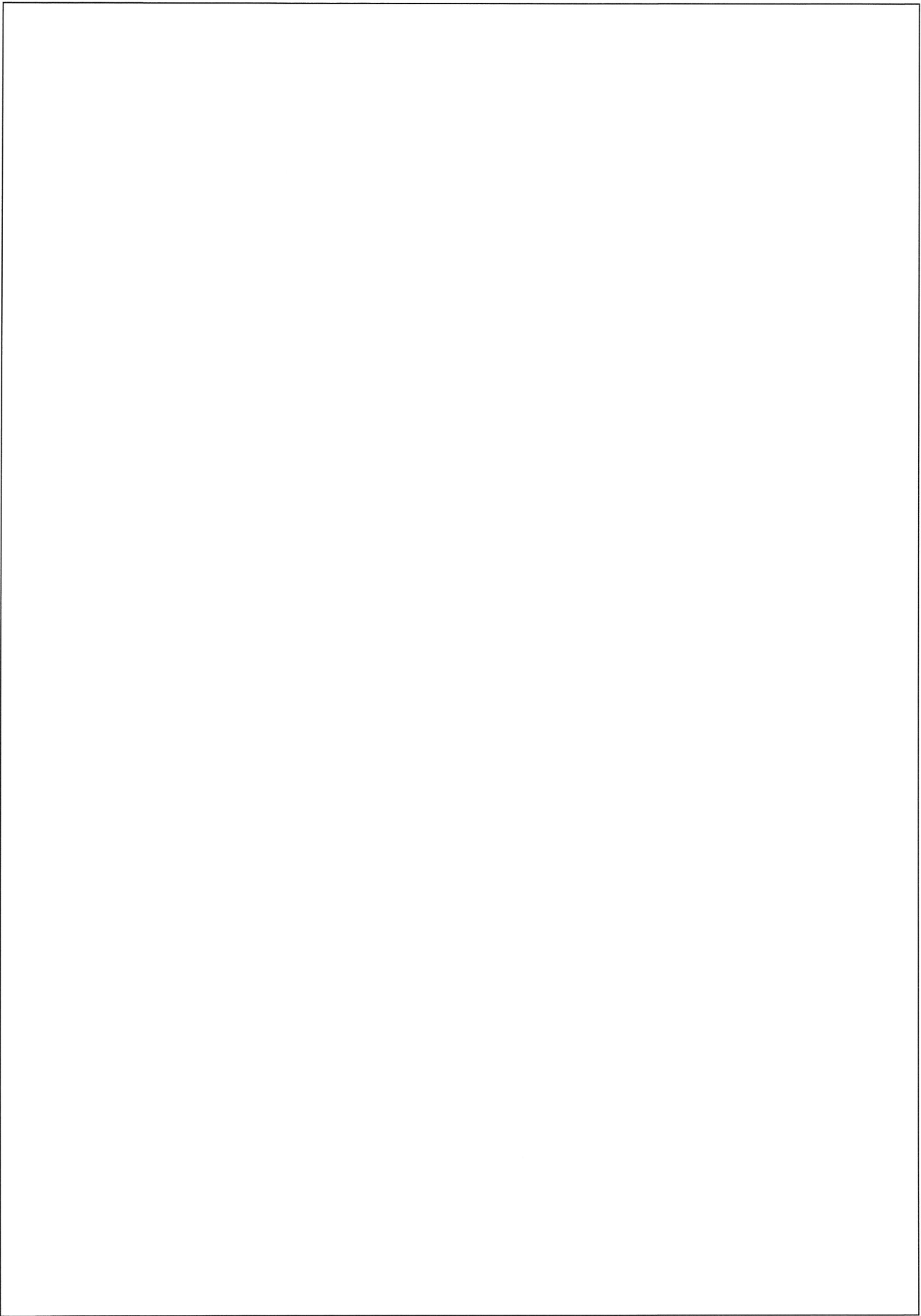
[Beeler-Duden, S., Pelletz, K., & Vaish, A. (2022). Recipient identifiability increases prosocial behavior in young children. *Journal of Experimental Child Psychology*, **223**, 1-8. を一部改変して作成]

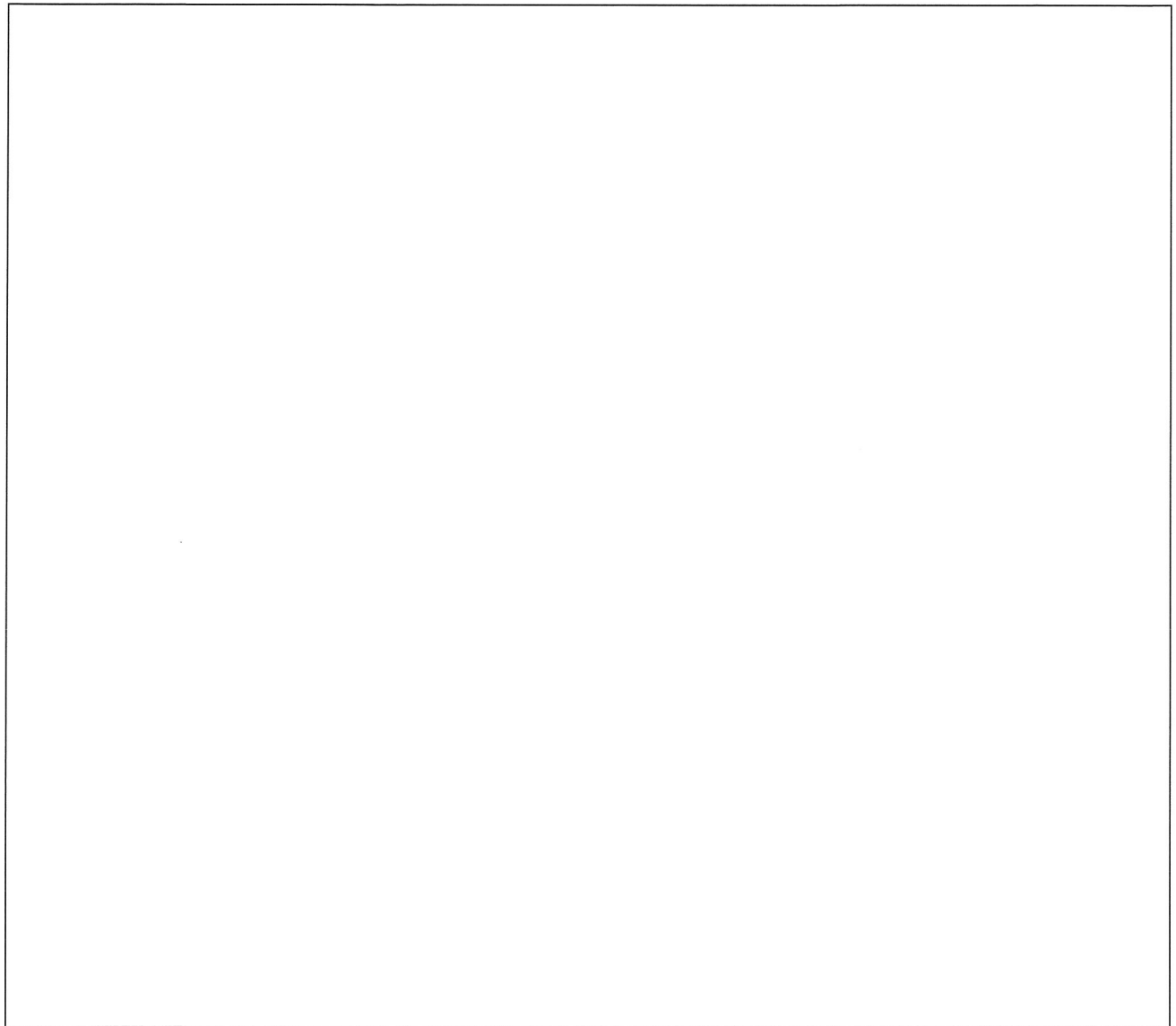
- 問 1 下線部(1)を日本語に訳しなさい。なお引用にかかる人物名と西暦は省いてよい。
- 問 2 下線部(2)“identifiable victim effect”（身元のわかる犠牲者効果）とは何か、本文の記述に基づき、説明しなさい。
- 問 3 下線部(3)の「これらの結果」はどのような結果なのか、まとめなさい。
- 問 4 下線部(4)を日本語に訳しなさい。なお引用にかかる人物名と西暦は省いてよい。

【設問 B－2】 次の英文はある研究論文の問題と目的部分からの抜粋である。この英文を読んで以下の問いに答えなさい。

ここに当該文献の

1934 ページ左段 下から 14 行目～1935 ページ右段 上から 19 行目
の部分が掲載されています。





[Halim, M. L. D., Atwood, S., Osornio, A. C., Pauker, K., Dunham, Y., Olson, K. R., & Gaither, S. E. (2023). Parent and self-socialization of gender intergroup attitudes, perceptions, and behaviors among ethnically and geographically diverse young children. *Developmental Psychology*, **59**(10), 1933-1950.を一部改変して作成]

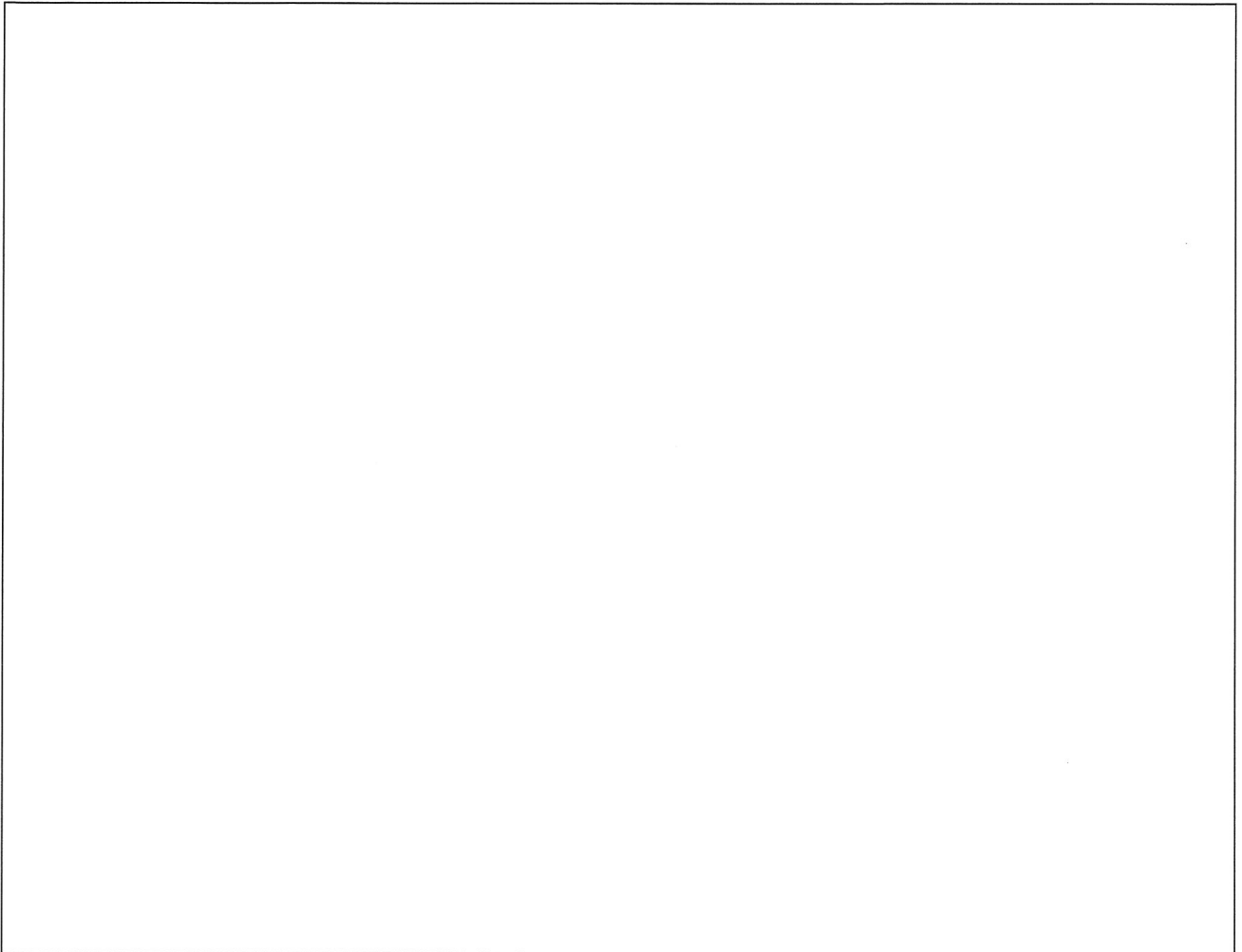
- 問 1 下線部(1) children's gender development に関して提唱されている理論について、あなたの知っているものをいくつか、具体的な理論の名前を明示した上で説明しなさい。
- 問 2 下線部(2)を日本語に訳しなさい。なお引用にかかる人物名と西暦は省いてよい。
- 問 3 下線部(3)を日本語に訳しなさい。なお引用にかかる人物名と西暦は省いてよい。
- 問 4 この英文で書かれている範囲から読み取れるこの研究の目的について説明しなさい。

(発達障害学領域)

【設問 C－1】 次の英文を読み，問いに答えなさい。

ここに当該文献の

399 ページ本文 1 行目～400 ページ 36 行目，401 ページ 5 行目～16 行目の部分が掲載されています。



[Ochs, E., Kremer - Sadlik, T., Solomon, O., & Sirota, K. G. (2001). Inclusion as social practice: Views of children with autism. *Social Development*, **10**(3), 399-419.を一部改変して作成]

- 問 1 下線部(1)を日本語に訳しなさい。
- 問 2 下線部(2)の理由について，米国の法的背景とともに日本語で説明しなさい。
- 問 3 下線部(3)を日本語に訳しなさい。
- 問 4 下線部(4)を日本語に訳しなさい。

【設問 C－2】 次の英文を読み，問いに答えなさい。

ここに当該文献の

302 ページ 16 行目～41 行目， 303 ページ 4 行目～35 行目
の部分が掲載されています。

[Kahana-Kalman, R., & Goldman, S. (2008). Intermodal matching of emotional expressions in young children with autism. *Research in Autism Spectrum Disorders*, 2(2), 301-310.を一部改変して作成]

- 問 1 下線部(1)を日本語に訳しなさい。
- 問 2 下線部(2)intermodal matching paradigm とは何か。日本語で説明しなさい。
- 問 3 下線部(3)を日本語に訳しなさい。
- 問 4 下線部(4)を行うための工夫とその背景について日本語で説明しなさい。

令和 7 年度

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(後期課程・一般選抜)

臨床心理学コース

入学試験問題 外国語科目 (英語)

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 16 枚(表紙を除く)、解答紙は 4 枚。
- 3 設問 1、設問 2 の解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書の持ち込み不可とする。

【設問 1】

以下の論文を読んで、その内容に基づいて、以下の問 1～問12に答えなさい。但し、特に断りのない限り、日本語（カタカナ表記も含む）で記すこと。

問1 韓国において青年期から成人期への以降期が心理的な問題を引き起こしやすい背景を述べなさい（4点）。

問2 先行研究で報告されている女子大学生の精神医学的問題を述べなさい（5点）。

問3 この研究の目的を述べなさい（6点）。

問4 この研究で言及している APA による "psychological trauma" の内容を述べなさい(6点)。

問5 この研究における active coping と passive coping、それぞれの下位尺度を述べなさい（5点）。

問6 精神的健康状態と関連のあった社会統計学的特性を述べなさい(3点)。

問7 研究参加者の包含基準を述べなさい（4点）。

問8 この研究で述べられている対面インタビュー調査と比べた場合のオンライン調査の利点について述べなさい(2点)。

問9 幼少期の心理的トラウマが成人期の精神的健康に与えていた影響について正しい記述を以下の A)～D)の中から1つ選びなさい(3点)。

- | | |
|----------------|--------------------|
| A) 影響はない | B) 直接的な関連と間接的関連がある |
| C) 間接的な関連のみがある | D) 直接的な関連のみがある |

問10 幼少期の心理的トラウマを独立変数、精神的健康を従属変数、PTSSを媒介変数とした分析において、(1) 幼少期の心理的トラウマが精神的健康に与える直接効果、(2)PTSSの媒介効果、(3) 幼少期の心理的トラウマが精神的健康に与える総合効果、の数値について答えなさい（3点）。

問 11 active coping と passive coping では、どちらがよりメンタルヘルスの維持に効果的
と推察されるか、正しい記述を以下の A)～D)の中から 1 つ選びなさい(3 点)。

- | | |
|------------------|-------------------|
| A) active coping | B) passive coping |
| C) 両方同じ効果 | D)不明 |

問 12 著者らが言及している本研究の限界点を述べなさい(6 点)。

出典 : Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*,58(4),1763-1775. より抜粋

ここに以下の文献の 1763 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1764 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1765 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1766 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4) 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1767 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1768 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1769 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1770 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1771 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1772 頁が入ります。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

ここに以下の文献の 1773 頁が入ります。但し、References 以下は削除されています。

Lee S., Kim H., & Kong S. (2022). Associations between childhood psychological trauma, posttraumatic stress symptoms, and mental health in female college students: Mediation of coping styles. *Perspectives in Psychiatric Care*, 58(4), 1763-1775.

DOI:10.1111/ppc.12986

【設問 2】

以下の文章を読んで、問 1～問 4 に答えなさい。但し、特に断りのない限り、日本語（カタカナ表記も含む）で記すこと。

問 1 chronic stressors と life stressors それぞれの定義、および両者の関係性について、本文に即して述べよ。（10 点）

問 2 chronic stressors がもたらす影響について、複数の観点から述べよ。（10 点）

問 3 chronic stressors に晒されている青少年に対して mindfulness が効果をもたらすと考えられるメカニズムについて説明せよ。（20 点）

問 4 従来の Mindfulness-Based Interventions に関する研究について、どのような問題点があり、どのような解決策があると著者は考えているか。本文に即して述べよ。（10 点）

出典： Miller-Chagnon,R.L, Shomaker,L.B., Prince,M.A., Krause,J.T., Shelley A.R., Rzonca,A., Haddock,S.A., Zimmerman.T.S., Lavender,J.M., Sibinga,E., & Lucas-Thompson,R.G. (2024). The benefits of mindfulness training for momentary mindfulness and emotion regulation: A randomized controlled trial for adolescents exposed to chronic stressors. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 92(12), 800-813. より抜粋

ここに以下の文献の 801 頁（ページ注釈除く）が入ります。

Miller-Chagnon,R.L, Shomaker,L.B., Prince,M.A., Krause,J.T., Shelley A.R., Rzonca,A., Haddock,S.A., Zimmerman.T.S., Lavender,J.M., Sibinga,E., & Lucas-Thompson,R.G. (2024). The benefits of mindfulness training for momentary mindfulness and emotion regulation: A randomized controlled trial for adolescents exposed to chronic stressors. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 92(12), 800-813.

DOI:10.1037/ccp0000910

ここに以下の文献の 802 頁および 803 頁第 1 段落が入ります。

Miller-Chagnon,R.L, Shomaker,L.B., Prince,M.A., Krause,J.T., Shelley A.R., Rzonca,A., Haddock,S.A., Zimmerman.T.S., Lavender,J.M., Sibinga,E., & Lucas-Thompson,R.G. (2024). The benefits of mindfulness training for momentary mindfulness and emotion regulation: A randomized controlled trial for adolescents exposed to chronic stressors. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 92(12), 800-813.

DOI:10.1037/ccp0000910

